

研修名 マネジメント

平成29年5月19日（金）10:00～12:30

講演 「実践研究の実践に向けて」

講師 桜花学園 大学 小嶋 玲子 氏

1 講演要旨

1) 保育の質の向上のために保育を発信する

- ・自分たちの保育実践を言語化し、可視化し、実践行為の根拠を明確化していく。実践埋没型にならないために経験は意図的に積み重ね、整理を加えなければ真の実力にならない。
- ・誤りを改善するのではなく、どうすればうまくいくのか？をそれまでの見方を改めて、前に気付かなかった価値を認める。
- ・保育実践であたりまえにしていることを再度見直す。同じ現象を違う視点から検討する。うまくいっていることもなぜうまくいっているのかを検討する。

EX) 円柱を横から見ると四角に見えるが、上から見ると丸に見える



→見る角度によって見え方が全く違う

- ・工夫していることを共通認識として深めて見直す。

2) 実践研究の取り組みにあたって

- ・保育の専門家である保育者が、その専門性を発揮し質の高い保育を展開していくために実践研究は欠かせない。保育者が、実践を通して得たコツやカン、伝承的に共有されてきた経験知や暗黙知を、理論的根拠をもって「形式化された知」にしていくことによって保育の知見や技術を体系化し「保育学」として専門性を構築していくことにつながる
- ・論文とは…最終的に提出した問題に解答（結論）を与える

・保育の実践研究の流れ

保育実践の中で研究をするには、日々の記録の書き方を工夫する

- ① 先行研究にあたり、すでに明らかにされていることを整理する
- ② 目的
- ③ 目的を達成するためにどのような方法や手続きを用いるのか決める
- ④ 実践の結果をまとめる
- ⑤ 研究目的を再度確認しながら考察する。結果から言えることを述べる
- ⑥ 願わくば、その研究自体が「文献」として、次の研究の発展に資するように考える

- ・保育の実践研究論文を書く困難さ
 - ① 論理的な言葉になりにくい
 - ② 因果関係が分かりにくい
 - ③ 第三者にわかる文章を書く難しさ
 - ④ 日本語の特徴
 - ⑤ 論文を執筆する訓練を受けていない
 - ⑥ 論文執筆の時間がない
- ・保育実践研究論文を書く困難さを克服するために
 - ①書くべき内容をしっかり決める
 - ②論の進め方を決める（仮設生成型研究 or 仮説検証型研究）
 - ③健康研究にあたる
 - ④正しい日本語を書く
 - ⑤事実と意見の区別をする
 - ⑥事実から考察を飛躍させない
 - ⑦アンケート調査について勉強する

現行保育所保育指針では、「(4) 保育所における保育士は、児童福祉法第 18 条の 4 規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように倫理的に裏付けられた専門知識、技術及び判断をもって、子どもの保育をするとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものである」と書かれている。30 年改定の保育所保育指針では、加えてその職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならないが追加される

つまり、学び続けなければならない

2 感想

日々の保育の中での反省や考察など、日常、当たり前を繰り返している PDCA サイクルを可視化することが、第三者に発信するだけでなく、自身の向上にもつながるのだと改めて感じた研修であった。

(記録 社会福祉法人 広野保育所 東順子)